

## グアテマラ内政・外交(2008年1月)

平成20年2月  
在グアテマラ日本国大使館

### 1. 概要

2007年の大統領選挙の結果を受けて1月14日、コロン新政権が発足。コロン新大統領は、歓迎ムードの中、大きな期待を背に4年間の任期をスタートさせた。今次大統領就任式には米州、アジア、ヨーロッパを始め、70ヶ国以上からの参列があり、国内の招待者とあわせ盛大な式典となった。我が国からは山口泰明衆議院議員が特派大使として当国を訪問、大統領就任式および関連の諸行事に出席した他、コロン新大統領、ベルシェ前大統領とそれぞれ会談を行った。国会では新執行部体制のもと14日に通常国会が開会し、また、15日、全国334市では新市長就任式が目立った混乱もなく平穏裡に執り行われた。

外交面では、コロン新大統領が、山口特使との会談を皮切りに、大統領就任式出席のため当国を訪問した各国大統領らとの間で精力的に個別会談を行い、早速、各国との二国間関係構築に取りかかった。他方、1月下旬、エスパーダ副大統領はキューバ政府の招待を受けて同国を公式訪問した。その他、前政権からの懸案事項であった「グアテマラにおける無処罰問題対策委員会(CICIG)」が発足、グアテマラ市内に事務所を開設し活動を開始した。

### 2. 内政

#### (1) 大統領就任式関連

(イ) 14日、国立劇場にて大統領就任式典(および新閣僚就任式)が行われ、アルバロ・コロン・カバジェロスが新大統領に就任。同式典には、中米各国およびメキシコ、ブラジル、コロンビア、ベネズエラ、エクアドルの大統領(計10ヶ国)の他、陳台湾総統、フェリペ西皇太子など合計70ヶ国以上からの参列があった。我が国からは山口泰明衆議院議員が特派大使として参列し、コロン大統領接見・レセプション、ロダス外相主催晩餐会等にも出席した(二国間会談については3. 外交(1)を参照)。

#### (ロ) コロン新大統領の演説

コロン大統領は、就任式での演説の中で、新政権の基本方針である「生産性・競争力」、「ガバナビリティ」、「連帯」他に言及しながら、特に貧困層や先住民等の「持たざる者」により裨益するような施策の優先に心がける旨、また、対話を通じた国民間の融合を維持・促進し、国の経済における潜在的可能性を最大限に開拓していく意向である旨を強調した。

#### (2) 国会: 2008年度常会の開会と新執行部の発足

14日、2008年通常国会が開会。冒頭、新執行部役員選出のための投票が行われ、新国会議

長としてエドゥアルド・メイエル議員(与党・国民希望党(UNE))が選出された。任期は1年。新執行部(議長、副議長3名、書記3名)は、UNE5名、グアテマラ共和戦線(FRG)2名、統一会派党(PU)1名、国民革新党(UCN)1名で構成され、最大野党である国民大連合(GANA)と、それに次ぐ愛国党(PP)からは選出されていない。UNEが51議席を保有しているのに対して、GANAは37議席、PPは29議席を有しており、今後これら2党の出方次第では国会審議が大いに紛糾する虞もある。

### (3) 全国 334 市にて新市長が就任

2007年9月の全国市長選挙の結果を受けて、15日、全国334市において新市長の就任式が行われた。任期は2012年までの4年間。昨年9月には一部の市で投票済用紙の焼き討ちや選挙結果を不満とする市民による騒ぎも発生したが、15日はいずれの市においても概ね平穏に就任式が行われた。なお、最大の人口(約140万人)を抱え、政治・経済の中心である首都グアテマラ市では、アルス一元大統領が市長として3期目を迎えた。

### (4) 社会連帯委員会の発足

21日、大統領府内に社会連帯委員会(CCS)が発足した。これまで公的社会投資プロジェクトについては、厚生省、教育省、大統領夫人社会事業庁(SOSEP)、食糧・栄養保障庁(SESAN)がそれぞれ所管(採択・実施)してきたが、今後、CCSがこれらを統括し、各種案件の調整・審査・採択を一元的に行う。優先すべきプロジェクトを明確にし、政策的に重複や無駄をなくすことが狙い。なお、各プロジェクトの実施はこれまでどおり、各省庁が担う。

## 3. 外交

### (1) 大統領就任式関連

#### (イ) 山口泰明衆議院議員のグアテマラ訪問

山口泰明衆議院議員は今次大統領就任式に特派大使として12日から15日の日程で当国を訪問。14日の同式典に出席した他、13日には、就任を翌日に控えたコロン次期大統領及び任期最終日を迎えたベルシェ大統領との間でそれぞれ二国間会談を行った。

ベルシェ大統領からは、我が国の対グアテマラ協力につき深甚なる謝意が表明され、良好に推移する二国間関係に満足の意味が表明された。また、コロン次期大統領との会談では、山口特使より、今次大統領就任に対して祝意が伝えられるとともに、今後とも政府要人の往来を含め二国間関係が緊密に維持されることを願う旨述べられたのに対し、コロン次期大統領は、これに賛同するとともに、今後の取り組みとして、先住民の民生向上や政治参加改善を積極的に行っていく旨強調した。

#### (ロ) コロン大統領と各国大統領との会談

コロン新大統領は、大統領就任式の前後に、山口特派大使との会談を皮切りに、当国を訪問

中のメキシコ、エルサルバドル、エクアドル、ベネズエラ、ブラジル、コスタリカ、コロンビアの各国大統領、更に陳台湾総統、インスルサ OAS 事務総長、モレノ IDB 総裁等と個別会談を行った。中米各国との会談では中米統合の推進、メキシコとの会談では移民や治安問題、また、ベネズエラ及びブラジルとの間ではエネルギー分野における協力について意見交換が行われ、台湾との会談では、同国より、地方農村開発や関連のインフラ整備に関する支援の継続が表明された。

#### (2) エスパルダ副大統領のキューバ訪問

31 日から 2 月 1 日の日程で、エスパルダ副大統領がキューバを公式訪問(エネルギー鉱山大臣、文化スポーツ大臣、大統領府食糧栄養安全保障長官、サンカルロス大学学長が随行)。今次訪問は、両国は外交関係再開 10 周年に際しキューバ政府が同副大統領を公式招待したもの。滞在中、同副大統領は、ラヘ国家評議会副議長、ベラ高等教育大臣、ガルシア基礎産業大臣、ロマス外国投資経済協力大臣との会談をそれぞれ行った。エスパルダ副大統領は、ラヘ国家評議会副議長との会談で、保険衛生分野等におけるキューバの対グアテマラ協力の積極展開に謝意を伝えるとともに、今後、両国が経済分野のみならず、農業やエネルギー、観光分野等においても協力関係を一層進展させていきたい旨述べた。

#### (3) 「グアテマラにおける無処罰問題対策委員会(CICIG)」の発足

2006 年 12 月に国連とグアテマラ政府の間で設置が合意され、2007 年 8 月に国会承認された「グアテマラにおける無処罰問題対策委員会(CICIG)」が 11 日に正式発足し、グアテマラ市内に事務所を開設、活動を開始した。CICIG は、当国検察庁を技術的にサポートすることを目的として、麻薬・人身取引、密輸等の組織犯罪や、これに絡む警察・刑務所・税関・移民局等の汚職に関する捜査・訴訟関連手続きを行う。CICIG が、外国人スタッフの給与及び活動費用を賄い、他方、グアテマラ政府は、事務所の賃料、光熱費、警備費、グアテマラ人スタッフの給与等を負担する。

#### (4) ポルティージョ元大統領の引渡問題

2004 年 2 月よりメキシコに滞在中のポルティージョ元大統領に対しては、在任時代の汚職容疑に関するグアテマラからの身柄引渡要請に基づき、2005 年 10 月にメキシコにて逮捕状が発出され、墨政府(外務省)も本件身柄引き渡しに前向きな姿勢を見せていた。その後、同国最高裁は、ポルティージョ側弁護団の申し立てによりグアテマラ・メキシコ間の犯罪人引渡条約の合憲性を審理していたが、30 日、同最高裁は、右について違法性はないとする判断を下した。これにより、今後、第 6 刑事法廷(一審)においてポルティージョ元大統領の引き渡しの是非が審理されることとなった。

#### (5) 中米議会: ベルシエ前大統領とステイン前副大統領は議員就任を辞退

中米議会(PARLACEN、所在地: グアテマラ、132 議席)では、同議会議員として加盟各国において 20 名が選出される他、前大統領および前副大統領が自動的に議員に就任することとなっている。

るが、ベルシェ前大統領およびステイン前副大統領は、自らの自動就任と給与の受領資格がある現行制度に異を唱えるなどして、右就任を辞退しており、24日に開かれた2008年第一回目の本会議にも出席しなかった。1992年に創設された中米議会の歴史上、これまで就任を辞退した前大統領・前副大統領はいずれの国にもいない。